

磯子台の家

横浜市磯子区

設計 矢板久明建築設計事務所

プロデュース 建築プロデュース研究所

施工 建築プロデュース研究所





28～29頁 北側全景。上部のカラマツが張られているボックス部分が1階レベルとなる。前面道路からの外壁後退という指定のため、十分な引きをとってエントランスコートとしている 右頁 南側の庭・デッキ。前面道路からここへ直線上がることもできる 上 南側の庭からの夜景



上 トップライとの取られた底下のデッキ。チーク材を敷き詰めている 32～33頁 居間。左手は食堂、右手はデッキにつながる。正面の壁の向こう側が倉所。食堂の天井高は2,340mm、居間の天井高は3,600mmと高くとられている





建築、直感、ORDER: 心の宿る場所を求めて

矢板久明

ORDER IS

Design is form-making in order

Form emerges out of a system of construction

Growth is a construction

In order is creative force

In design is the means...

この言葉を、わたしはこの20年思い続けている。私が存在する以前より、オーダーはこの時この地にありと語りかけてくるのである。この思いが、与件から建設プロセスのすべてにわたる観察を通して、この地にあるところの善きオーダーの発見と、創造力の源であり続けたように思う。

○

敷地は横浜の丘陵地につくられた難壇状の造成地であり、通りから5m上にある大谷石の擁壁に支えられた地盤である。建主は小学校に上がったばかりのお子さんふたりがいっしょに30代の若いご夫妻であり、家族のための部屋と客間、車庫から直接入ることのできる設えと、そして何よりも木の質感のある家を望んでおられた。

当初は既存の擁壁を基壇として生かし、その上に各階に割り当てられる部屋を与件にしたが、建物のヴォリュームを把握するように描き出していった。

ここで立ち現れてくるのは車庫のある最下層部を基壇とし、その上に3層の建築が築かれるという構成である。当時はこの処理し難い4層のヴォリュームをどうにかして生かさうと、通りから上部の庭まで見通すことや、前面に階段をつくって立面に動きを表現することなど、上方へ向かう動きのベクトルの表現のみ解決の糸口を捜していたようである。このようとき、決定的な案のないまま建主との打合せがあった。いつもはご夫妻だけの打合せが多かったが、その日はおさんふたりが、横のソファで遊んでいる脇での打合せであった。おふたりのおさんに対する眼差しや、子供たちの楽しそうに遊ぶ姿を見ると、私も一瞬家族の一員になったような嬉しい気持ちを感じていた。



プレイルーム

そのとき、そうだ、この家族はひとつの部屋に集うべきだ、という思いを抱いた。

子供部屋は眺めのよい道路側に置こう。

その前にはお父さんがパソコンを使う時に一緒にいれるような机があるとよい。

ここに座ると日に照らされた庭が見える。

居間も庭の一部にしよう。

食堂は朝日があたる東側だ。

オーダーの囁きが聞こえたようであった。

いろいろな問題が一気に解決していった。懸案であった客間も、寝室の仲間として、地下1階に納まり、夜の階の一員となった。これに対し1階は昼の階とでも呼べる家族の集いの場として、この家の主空間としての役割を得るに至った。

一方で大きな課題が残っていた。基壇である。この場所で定められている第1種低層住居専用地域は、横浜市が1mの外壁後退を指定しており、事前打合せでも車庫は上部躯体と連続している限り、建築物であるのでこれに該当するとの判断が出ていた。

そこで思い切って車庫の壁面を建物前面に十分な広がりができるまで通りから後退させる決断をした。これにより入口に出会いの場としてのエントランスコートが出現することとなった。もはや基壇は姿を消していた。しかし、大変な根切り量である。西側の隣地に接する外壁面は地下2階の車庫までまっすぐ下りていくため、特に仮設工事が困難なことがわかった。これを避けるため、建物の全幅を縮小して西側隣地との距離を広げ、玄関前から庭へと上がる外部階段をつくることにした。

この結果顕れてきたのが、入口のエントランスコートから庭を通して居間へと至るひとつ

の螺旋状の空間である。

○

これなら、道路面から上の庭までを一体の空間とすることができ、キッチンからのゴミ出しはもろんのこと、植木やさんの出入りにもちょうどよい。そして、建物の全幅を縮めるために子供部屋を食堂のほうへ移動したことで、居間は庭のほうへ押し出され、食堂とのくびれが強くなり、さらに庭との一体感を強めていた。

ここに庭と建物はふたつの重なり合った正方形として浮かび上がってきた。両者の中間のものとしてデッキをつくることは、必然のようにも思われた。フォームの結実を感じた。これをきっかけに、建物全体をカーンから学んだ比例を用いてあらためて観察してみると、大小の正方形や3:5の比をもつ矩形の広がりや、いくつも重なりあって見出しされ、階高や天井高もこれに基づき調整された。五線譜に踊る音符のように、平面と高さが数と戯れた。意識の領域として、心の安らぎの形として、家族の集う場所を求めて。

○

主階は建主の好きな木でぐるむことにした。ちょうど、家族がひとつに包まれるように。

Design is not making Beauty

Beauty emerges from selection

affinities

integration

love...

Louis Kahn, 'ORDER IS', *Perspecta 3*: The Yale Architectural Journal, 1955, p.59



居間より北側を見る。前面道路から2層分上がったレベルにあるため、眺望が開けている

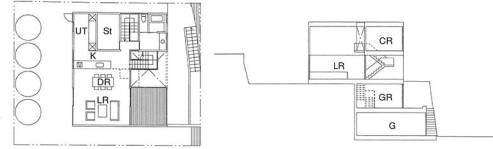


プレイルームより居間を見る 36頁 居間・食堂より階段室、プレイルーム方向を見る



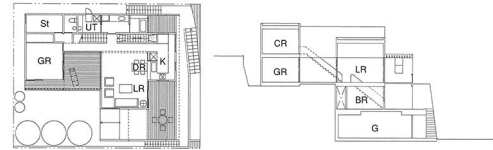
1999.03.16 No.09

階段を上るにしたがって、景色や各部屋が見え隠れするようなプロムナードをつくる案。既存構想の外部階段を残し、基礎の上に3層の建物を作成。これ以降しばらく4層の高さを退屈しないよう上るための工夫が焦点となった。客間は地下1階に置き、基礎上に庭をつくり独立した空間の演出を想定した。しかし、地下は上部構造のための基礎ということ以外の存在根拠が希薄であった。ユーティリティと脱衣室が離れていることも問題とされた。



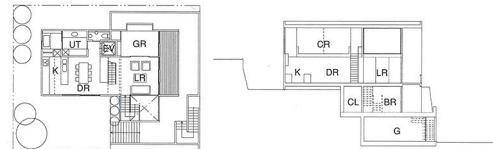
1999.04.15 No.22

中庭を介して客間、居間、食堂を配置した案。玄関から最上階まで階段を連続見通す。ユーティリティは脱衣所の隣にまとめられている。道から見ると通りに平行につくられたデッキの向こうに庭の木が見えることも意識していった。中庭のため、子供部屋が隣に迫りやられ、残じられた印象。既存構想の外部階段を残した場合、車庫は東南につくらなければならない。上層の日照確保の条件と対立することがわかり、保存は難しいと判断。



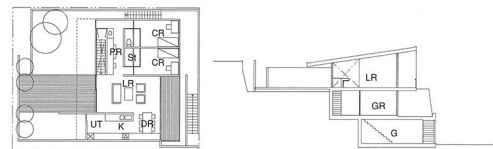
1999.06.07 No.47

車庫の真上にこれと同じ幅の単純な箱を置き、この大きな空間に子供部屋を浮かべた案。子供部屋の位置が案になるとの意識が明確になってきた。この階のどなたが住まわれかまれないかが課題となり、エレベータが登場する。ある程度の空間の広がりはあるが、箱形の形状は完結性が強すぎ、さらに広い敷地を要求しているようである。構造的には、4層の高さで幅は揃ったが、上層の基礎の片持ちが依然として長すぎる。



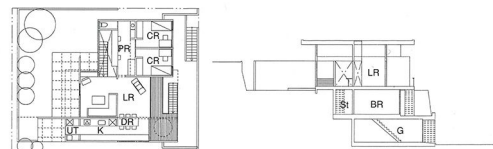
1999.06.24 No.55
最終案の原型

子供部屋を1階に置き、家族がひとつの階に集まるようにした案。浴室と共に客間と脱衣室を地下に置くことで、3層の構成が実現。これまで、4層であったため階段動線に悩んでいたことに気づく。エレベータはなくなり、必要な階段がリフトをつけることとした。問題は、居間と食堂が南北に抜けすぎ、庭との繋がりがまだ弱いことと地下の建設が隣地境界との距離が狭く困難なことであった。庭へ上る外部階段はまだ付加的である。



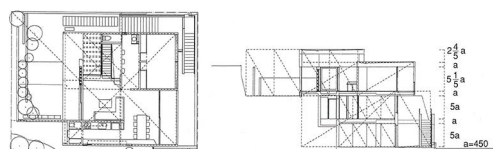
1999.05.14 No.65
最終案直前

通り側と庭側の空間の質の違いを強めていった。居間、食堂は庭側へずらし、居間は庭の空間に取り込まれ、食堂側には再度基礎から上がる階段が設けられている。着年の後進現象か、この居間と食堂のある部分の屋根はもた上げられ、子供部屋のある部分と、ふたつのヴォリュームで表現している。この高い屋根は最終案では居間側の部分だけ残されることになる。この案に対し、市から正式に車庫外壁の後退が必要との判断が出た。



2000.01.14 No.70
実施案

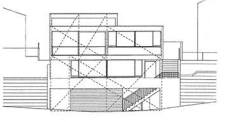
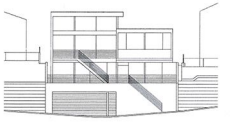
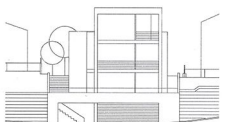
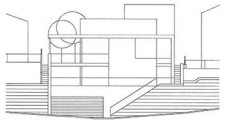
建物の全幅を縮小し、車庫をセットバックすることによって、開口部に開放的な空間が発生し、全体が幾何学的なまとまりまで具現した。構造も手でお盆を支えるように上に行くにしたがい広がるとなり、良好な断面形となった。土庄の低減にも有効である。各部分の接合方法を検討することが、さらに全体の構造的理解を深めリテラシーを得ていった。材料は洋風の生地を選ぶように、人の肌と合わせ、人が生き生きと見えるものを最良とした。

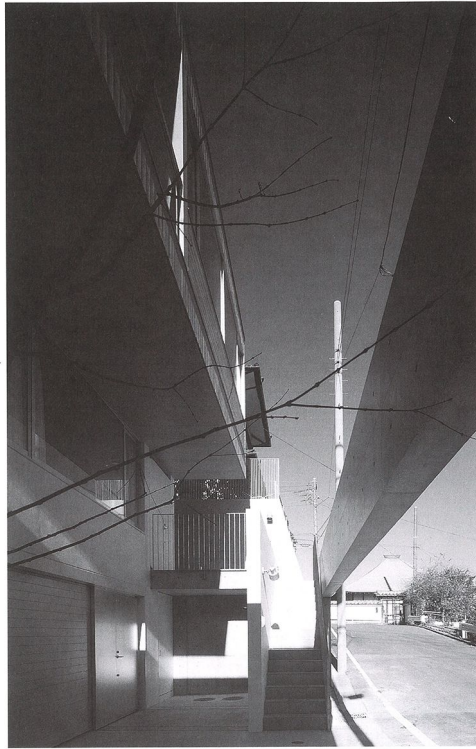


設計のプロセス

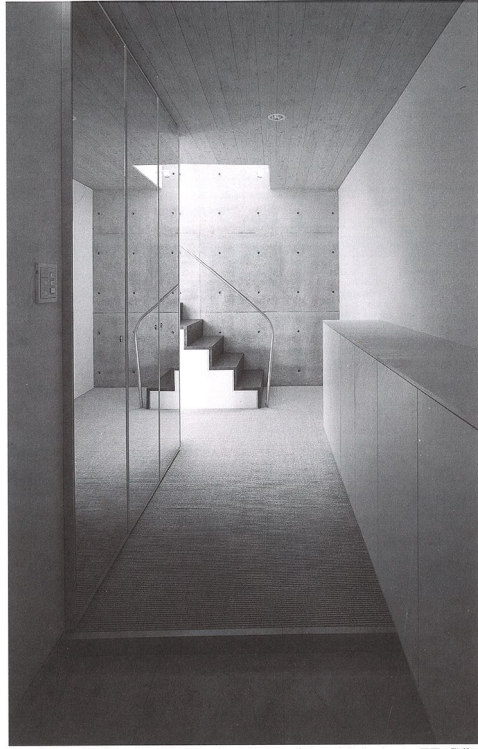
左より1階平面、断面、立面。
縮尺はすべて1/500

部屋名凡例
LR 居間 DR 食堂
K 台所 UT ユーティリティ
DK デッキ PR プレイルーム
GR 客間 CR 子供室
BR 寝室 CL クローゼット
G 車庫 St 納戸

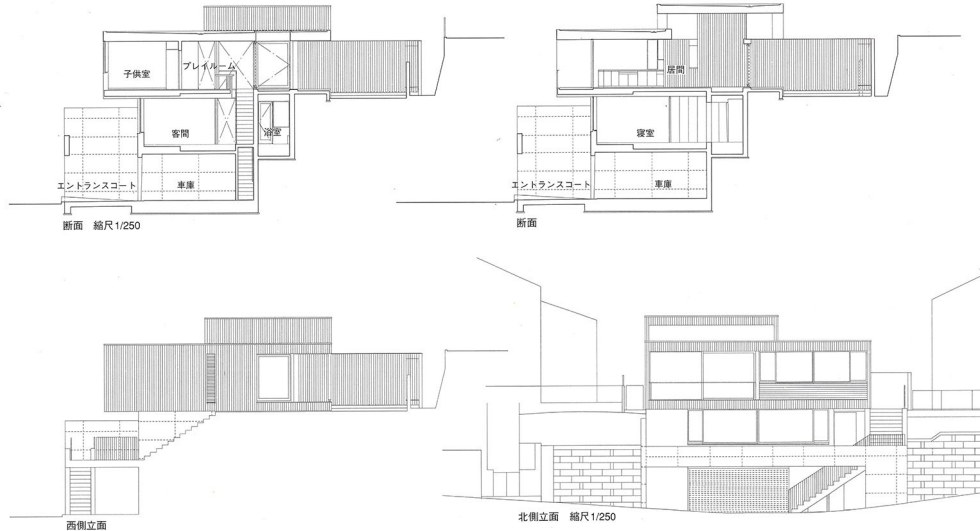




エントランスコート

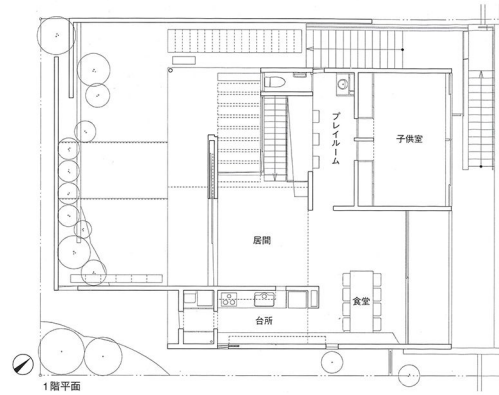


地下1階玄関、前面道路からは1層分上がったレベルにある。床はココヤシカーペット、正面の階段は居間・食堂につながる

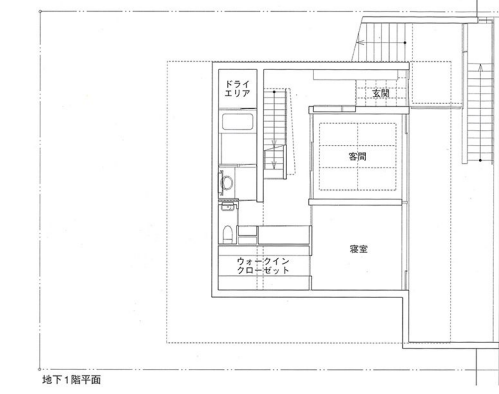


西側立面

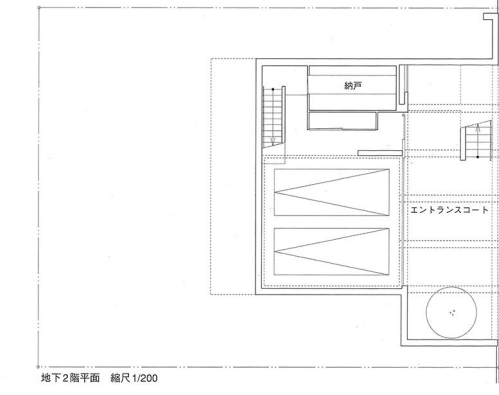
北側立面 縮尺1/250



1階平面



地下1階平面



地下2階平面 縮尺1/200

■親子台(いそごいの)家
 所在地/横浜市磯子区
 主要用途/専用住宅
 家族構成/両親+子供2人

設計
 建築 矢板久明建築設計事務所
 担当 矢板久明 山崎社一
 プロデュース 建築プロデュース研究所
 担当 大内昌弘 山中照彦
 構造 構造設計社 担当 杉浦克治

施工
 建築プロデュース研究所(施工監理部)
 担当 大久保洋三 坂井由美
 土工事・コンクリート工事 永元組 担当 永元秀亮
 設備 伊藤設備 担当 伊藤敏則
 電気 堀江電気工事 担当 堀江泰平 沢井秀樹
 空調 システムクリエイト 担当 中島廣文
 外構・造園 箱根植木 担当 大平純 福島雄雄
 鋼製建具 エイバクトーヨー住器 担当 松崎秀夫
 木製建具 千葉木工 担当 千葉信彦
 家具 ドゥーピング 担当 八木利一

構造・構法
 主体構造・構法 鉄筋コンクリート造+木造基礎
 基礎 直接基礎(ベタ基礎)

規模
 地下2階 地上1階
 軒高5,200mm 最高の高さ7,670mm
 敷地面積 254.43㎡
 建築面積 98.69㎡ (建築率38.7%許容40%)
 延床面積 114.13㎡ (容積率44.8%許容80%)
 地下2階 61.35㎡
 地下1階 64.38㎡
 1階 83.25㎡

工程
 設計期間 1998年12月~1999年12月
 工事期間 2000年1月~2000年12月

敷地条件
 第1種低層住居専用地域(前面道路より1m外壁後退)
 防火指定無 第1種高度地区 第3種風致地区(前面道路より2m外壁後退) 建築基準法第22・23条指定地域
 道路幅員 北6m 駐車台数2台

外部仕上げ
 屋根/改質アスファルトシート2枚貼りの上に砂付きアスファルトシート(田島ルフィング)
 外壁/カラマツ隠蔽処理材 t=15mm 土塗り壁同等品(上田第三木材) オスモカラー拭取り コンクリート打放しVP

開口部/アルミサッシ (TOSTEM) 一部木製建具

オーバースライダー(コングー)
 外構/エントランスコート: コンクリート研出し仕上げ
 デッキ: チークデッキ材 t=15mm (コアド)
 底: 芝 砕石敷き
 舗装/カクレミノ ソコゴ アメリカザイアフリボク
 カツラ

内部仕上げ
 居間 食堂 プレイルーム
 床/チークフローリング t=13mm (コアド) オスモカラー拭取り
 壁/カラマツ t=12mm (上田第三木材) オスモカラー拭取り
 天井/PB t=12.5mm AEP

玄関 地下1階廊下
 壁/ライムストーン t=17mm (TGM) ココヤシカーペット t=8mm (上田敷物)
 壁/PB t=12.5mm AEP
 天井/カラマツ t=12mm (上田第三木材) オスモカラー拭取り

寝室
 床/カーペット t=14mm (アスワン パーバスクエア)
 壁/PB t=12.5mm AEP
 天井/カラマツ t=12mm (上田第三木材) オスモカラー拭取り

浴室
 床/45mm角タイル(セラメッセ)
 壁/20mm角ガラスモザイクタイル(エバーファースト)
 天井/珪酸カルシウム板 t=6+6mm VP

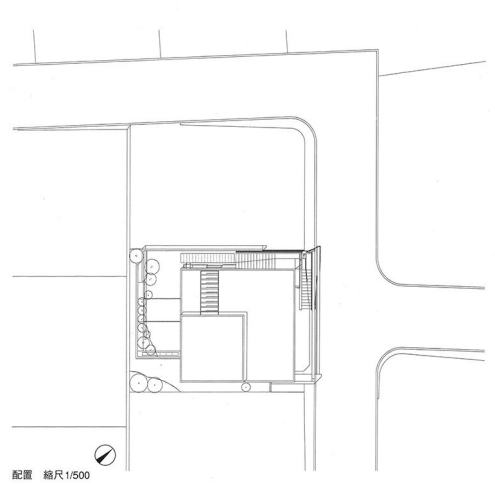
設備システム
 空調 冷暖房方式/空冷ヒートポンプエアコン(ナショナル)
 暖房方式/ガス温水式床暖房TES(東京ガス)

給排水 給水方式/上水道直結
 排水方式/公共下水道放流

給湯 給湯方式/ガス給湯機(東京ガス)

主な使用機器
 衛生機器/グロウエ TOTO フジデザインコーポレーション
 厨房機器/クチーナ(システムキッチン マットベント仕上げ)
 家具/コアド インターオフィス
 照明/ヤマギワ ERCOTOTO インハウス 逸藤照明 小泉産業
 建築金物/スガツネ ベスト 美和
 カーテン/空間

—撮影/本誌写真部



配置 縮尺1/500

新建築 住宅特集

01:03

昭和61年7月8日発行 建築雑誌社発行 ISSN1342-6518

jit

作品 矢板久明／石井修／中井実／SCAPE／TODD／ph

特集 **タテに住む方法** 都市型住宅6題

論文・小さな住宅 千葉孝子

長坂大／前田紀貞／川口通正／前田光一／坂本昭／小川広次

記事 夢と伝説の75年 バンチ&オルフェン

追悼 林雅子さんを想う 村井修

連載 海外住まい事情23 クアラルンプール 小山基

おさまりのいい住宅10 中村好文

月評 難波和彦＋木村博昭＋青木淳

アンケート2000

第17回吉岡賞発表

審査座談会：均質な中から突出してくるもの

室伏次郎 × 岡部憲明 × 石田敏明